



田井 真一 議員
(改革未来・自民の風)



市民の医療ニーズを満たす新病院を

病床数再審議の意図は

問 北播磨医療圏域において「新病院の病床数 136 床」で確認されていたと認識するが、検討委員会で再度審議する意図は。

答 建設コスト、医業収支、医師確保など多角的に再確認する必要があったためです。136 床案に加え、144 床案、120 床案でのシミュレーションを基に審議され、今後の医療ニーズ等を踏まえ答申される見込みです。

在宅医療の充実を

問 高齢化に伴い高齢者特有の疾患と通院困難者が増加すると見込まれるが、在宅医療についての見解は。

答 通院困難な在宅患者数が直線的に伸びると想定され、県からは在宅医療への注力の指針が出ています。検討委員会では、訪問診療はかかりつけ医が中心となり、加西病院は後方支援を担う方向で検討されています。

医師確保の課題と方策は

問 大学病院や基幹病院からの医師派遣はかなり厳しいと思うが、状況は。県養成医師制度を活用した医師確保の可能性は。

答 医師の働き方改革の影響や指導医が不足する病院への希望者が少ないなど、医師派遣は極めて厳しい状況です。ただ、その

対策の提言が答申される見込みです。また、県養成医師制度を活用するためにプログラムを用意しましたが、希望者がいない状況です。

クリニックゾーンに休日救急センター(仮称)を

問 休日の救急診療は、開業医が当番制で担っているが、利便性向上のためメディカルタウン内に休日救急センターを設置してはどうか。

答 (副市長) 休日診療所を定点化すれば、「ここへ行けば休日診療を受けることができる」と認識され、非常に有効であると思います。課題もあるため、医師会や三師会と協議し検討していきたいと思ひます。

■その他の質問項目

- ・庁舎附属棟整備について
- ・粗大ごみ個別収集について



深田 照明 議員
(清流会・かさいを育む会)



加西病院の診療体制の現状と提案

医療センター等からの非常勤医師の派遣により診療体制を維持しています。

問 入院診療の現状と体制は。

答 昨年 4 月はコロナ入院患者が多かったことから、4～5 月の入院患者は前年度比 3.1%、267 名の減、1 日当たり 4.3 人の減少となっています。医師減少による入院患者の減少はやむを得ませんが、現状の医師の体制で最大限の受入れに努めています。

問 救急診療体制の状況は。

答 平日夜間は常勤医師も若干加わりますが、主に神戸大学等からの非常勤医師の応援により、これまで同様 24 時間 365 日の救急診療体制は維持しています。ただ、心臓カテーテル処置等

は平日昼間は通年対応していますが、夜間是对応できない日があり、北播磨総合医療センター等の基幹病院と連携して対応しています。

人間ドック受診者を増やすために

提案 医師の減少は病院の収益に大きく影響します。収益向上のために一般診療を増やすことは重要ですが、人間ドックなど自費診療部門を伸ばすことも収益改善につながると考えます。最近、食事制限が必要な胃カメラと大腸カメラ検査を同日実施する医療機関の人气が高まっています。加西病院でも同日実施が可能となれば受診者が増加すると考えます。また、MRI 装置の更新により画質が向上し、脳ドックや認知症検診の精度が上がっていることを PR するなど、人間ドック受診者を増やす取組を強化されるよう提案します。